

外務省及び防衛省からの説明等

【外務省発言】

武蔵村山市長をはじめ皆様におかれましては、日頃より横田飛行場の安定的な運用の確保に関し、多大なる御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

本日は、C V-22 オスプレイの我が国配備に関しまして、米国政府から接受国通報がありましたので、その内容について御説明させていただくためにお伺いいたしました。何とぞよろしく願いいたします。

昨日（5月11日）、米国政府から、2021年（平成33年）までに計10機のC V-22 オスプレイを横田飛行場に配備し、そのうち最初の3機を2017年（平成29年）の後半に配備する計画がある旨の通報がありました。

C V-22 オスプレイは、米空軍仕様のティルト・ローター機であり、我が国への配備後は、アジア・太平洋地域に所在する米軍の特殊作戦部隊等を輸送する任務を担うことになると米国政府から説明を受けています。

政府としましては、我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、米国のアジア重視政策や即応体制整備の一環として、高い機動力と広範な活動範囲を有するC V-22 オスプレイが我が国に配備されることは、日米同盟の抑止力・対処力の向上に資するほか、アジア・太平洋地域の安定にも資するという意義があるものと考えています。

米国がC V-22 オスプレイの配備先を横田飛行場に選定した理由につきましては、米国政府からは、運用や訓練上のニーズ、機体整備のための施設の利用可能性、10機のC V-22 オスプレイとその要員を受け入れるためのスペースの有無など、様々な点を総合的に勘案し、横田飛行場への配備が最適であると判断した旨、説明を受けております。

本日は、昨日の米国政府からの接受国通報について、先ず御説明に参りました。後日、改めて丁寧に御説明して参りたいと考えております。また、地元の皆様の安心と安全の確保につきましても、取り組んで参る所存であります。つきましては、今回の配備の意義について御理解をいただき、引き続きの御協力をお願いしたいと思います。